

わ

が

街

わ

が

故

郷

シミズ精工株式会社と藍住町

1. 徳島工場の紹介

〒771-1202

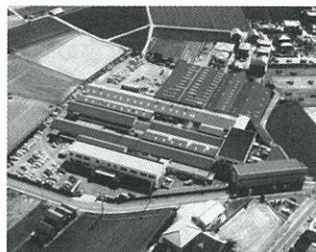
徳島県板野郡藍住町奥野字和田124

シミズ精工株式会社は昭和44年、プレス品の製造会社として、本社を大阪市に、生産工場を徳島県板野郡藍住町に構え産声をあげました。



本社ビル

創業時、徳島工場の生産活動は軸受金属保持器が中心でありましたが、社是の“小粒ながら日本一の企業にしよう”をモットーに走り続け、プレス品・金属保持器のみならず、社内合理化設備の開発、外部への販売を行い、またプレス金型・生産設備の社内設計・製造と一貫した生産体制を取り、常に時代を先取りした提案型企業としてお客様のニーズに応えられるよう取り組んでおります。



徳島工場全景

今回は徳島工場の位置する徳島県板野郡藍住町を紹介いたします。

2. わが街の紹介

地勢

徳島県の中央を流れる吉野川下流の北岸で、吉野川と旧吉野川に囲まれた海拔5.17mの平坦地で面積は16.27km²。板野郡の中央部に位置し、山や丘陵はまったくなく、吉野川によって形成されたデルタ地帯です。豊かな水、肥沃な土壌、温暖多湿な気候など自然条件に恵まれています。県都徳島市と鳴門市に隣接し、近年都市化が著しくなっています。



吉野川

歴史

室町時代には阿讃両国の守護細川氏の本拠地であった勝瑞城があり、ここでは守護大名細川氏歴代と下克上で細川氏を倒した三好氏が250余年にわたって室町幕府の実権を握り、中央政界に大きな影響力をもっていました。藍住町勝瑞が天下の注視を浴びた時代のことです。戦国時代も終わり、蜂須賀入国後は長く阿波藍の生産地として栄え、今も藍屋敷に往時のおもかげをとどめています。明治22年、町村制の施行により藍園村と住吉村が誕生しましたが、昭和30年に合併し藍住町となりました。合併後、大企業の誘致を図り、その頃から徳島市のベッドタウンとして県下の人口流入が続き、かつての純農村的雰囲気を一掃して、農、工、商と勤労者の活気あふれる町となっています。また、平成10年4月に明石海峡大橋の開通で本州と直結し、平成12年3月には徳島自動車道全線開通により、四国4県の県都が高速道路で結ばれ、高速交通時代に向けて大きく飛躍しようとしています。

物産

藍染

吉野川が育てたわが町は江戸時代中期から明治36年ごろまで、全国の藍市場に良質の藍玉を供給した藍どころとして、天下にその名を轟かせていました。吉野川は毎年の氾濫で、この付近の農家に大被害を与えました。洪水のシーズンは稲の開花期でしたので、洪水が襲う以前に収穫ができる藍が、この地の特産物として村人の生活を豊かにしたのです。天然藍で染めたものは、変色や色落ちせず、皮膚を保護してくれる薬効もあるので、藍に対する人気は日増しに高まっています。栽培面積は激減してしまっただけでなく、いまも最高品質の葉藍が産出しています。藍住町歴史館では天然藍で藍染めを体験し、楽しんでもらうことができるようになっています。

人参

吉野川の氾濫は有機物を含む肥沃な土を上流から運ぶ役割を果たし、自然の力による客土が、豊かな果菜栽培を支えています。藍住町で栽培されている果菜作物は、洋ニンジン、レンコン、ナシ、カリフラワー、白ウリなどがあります。特に春先、全国の市場に並ぶ洋ニンジンのシェアナンバーワンが藍住町産のもので、毎年秋から春にかけては町のあちこちに、洋ニンジン栽培のためのビニールハウスが建ち並びます。



ビニールハウス（人参）

冬の寒さや霜から逃れて立派に育った洋ニンジンが4～5月、まだ全国で収穫されないうちに収穫されます。大変めずらしい時期に出るので藍住町産の洋ニンジンは重宝されています。美しい赤の色具合、ほど良い甘味は藍住町産の洋ニンジンの特色です。

観光

藍の館

大藍商であった旧奥村家屋敷の13棟の建物が昭和62年に藍住町に寄付され、併せて13万点におよぶ奥村家文書も町所有となったのを機に、旧屋敷内に展示一号館を新設し平成元年8月1日に開館しました。中庭を中心に3つの藍加工場があり、藍栽培から藍を加工してスクモを作り、染めの段階までの全工程がわかりやすく紹介されています。藍染体験室もあります。

藍住伝説妙

弁慶の逆藤

阿波に上陸した源義経主従は、平家の拠点である桜間城を攻めて桜庭介重遠を降し、讃岐の屋島に向かうため、角瀬川まで軍勢を進めたが、そのまま渡河できそうにない。その時一羽の白鷺が飛来して主従を案内し、浅瀬を渡ることができた。たどり着いたのが住吉神社であった。義経はこの社に戦捷を祈願して弁慶を待っていたところ、やっと馬に乗ってたどり着いた弁慶は、鞭として使った藤の枝を社の境内に突き立てて、軍勢は大坂峠をめざして進軍した。弁慶が突きさした枝は逆さであったので、その後に藤は大きく育ったが、毎年この木からは上向きに花を咲かせたというので、この木を弁慶の逆藤といわれ、この地の地名として今に残り、昭和の初期までこの木はあったということです。



藍の館

バラ園

270種類1000株の色とりどりのバラが咲き誇り、豊潤なバラの芳香が全園にただよっています。見頃は5月中旬～下旬、10月中旬～下旬です。



バラ園

